

CASBEE-広島 2014年版		■使用評価マニュアル：CASBEE-広島 2014年版						
東邦薬品広島センター		■評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)						
		欄に数値またはコメントを記入						
スコアシート		実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体		
		評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質						2.6		
Q1 室内環境			0.31		-	2.6		
1 音環境		3.0	0.15	-	-	3.0		
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-			
1.2 遮音		2.6	0.40	-	-			
1		開口部遮音性能	3.0	0.60	-		-	
2		界壁遮音性能	2.0	0.40	-		-	
3		界床遮音性能(軽量衝撃源)	-	-	-		-	
4		界床遮音性能(重量衝撃源)	-	-	-		-	
1.3 吸音	床・天井に吸音材を採用	4.0	0.20	-	-			
2 温熱環境		2.1	0.35	-	-	2.1		
2.1 室温制御	外壁は断熱サンドイッチパネルを使用(U=0.63W/m2K) ゾーン別に冷暖房が選択可能な空調システムを採用	3.3	0.50	-	-			
1		室温	3.0	0.38	-		-	
2		外皮性能	3.0	0.25	-		-	
3		ゾーン別制御性	4.0	0.38	-		-	
2.2 湿度制御		1.0	0.20	-	-			
2.3 空調方式		1.0	0.30	-	-			
3 光・視環境		3.1	0.25	-	-	3.1		
3.1 昼光利用	昼光による照明制御を採用	1.8	0.30	-	-			
1		昼光率	1.0	0.60	-		-	
2		方位別開口	-	-	-		-	
3		昼光利用設備	3.0	0.40	-		-	
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-			
1		昼光制御	3.0	1.00	-		-	
3.3 照度		3.0	0.15	-	-			
3.4 照明制御	レイアウトフリー調光を採用	5.0	0.25	-	-			
4 空気質環境		2.7	0.25	-	-	2.7		
4.1 発生源対策	取り入れ口を汚染源のない方位に設け、各種排気口から十分に離隔	3.0	0.50	-	-			
1		化学汚染物質	3.0	1.00	-		-	
2		アスベスト対策	-	-	-		-	
4.2 換気		2.6	0.30	-	-			
1		換気量	1.0	0.33	-		-	
2		自然換気性能	3.0	0.33	-		-	
3		取り入れ外気への配慮	4.0	0.33	-		-	
4.3 運用管理		2.0	0.20	-	-			
1		CO ₂ の監視	3.0	0.50	-		-	
2		喫煙の制御	1.0	0.50	-		-	
Q2 サービス性能			-	0.30	-		-	3.4
1 機能性			3.4	0.40	-		-	3.4
1.1 機能性・使いやすさ	事務室の天井高は2.7～3.0mとし、執務者が屋外を望めるよう窓を設置 リフレッシュスペースを設け、従業員のアメニティの場を創出	3.0	0.40	-	-			
1		広さ・収納性	3.0	0.33	-		-	
2		高度情報通信設備対応	3.0	0.33	-		-	
3		バリアフリー計画	3.0	0.33	-		-	
1.2 心理性・快適性		3.3	0.30	-	-			
1		広さ感・景観	4.0	0.33	-		-	
2	リフレッシュスペース	3.0	0.33	-	-			
3	内装計画	3.0	0.33	-	-			
1.3 維持管理		4.0	0.30	-	-			
1	維持管理に配慮した設計	4.0	0.50	-	-			
2	維持管理用機能の確保	4.0	0.50	-	-			
3	衛生管理業務	-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性		3.6	0.30	-	-	3.6		
2.1 耐震・免震	建築基準法の1.25倍の耐震性	3.8	0.50	-	-			
1		耐震性	4.0	0.80	-		-	
2		免震・制振性能	3.0	0.20	-		-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.30	-	-			
1	躯体材料の耐用年数	3.0	0.20	-	-			
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	2.0	0.20	-	-			
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	3.0	0.10	-	-			
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	5.0	0.10	-	-			
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	5.0	0.20	-	-			
6	主要設備機器の更新必要間隔	3.0	0.20	-	-			

2.4 信頼性	1	空調・換気設備	災害時対策として重要度に応じ系統を区分 汚水ピット、受水槽の蛇口等を設けている 非常用発電機を設置	3.4	0.20		-							
	2	給排水・衛生設備		4.0	0.20									
	3	電気設備		4.0	0.20									
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20									
	5	通信・情報設備		3.0	0.20									
	3 対応性・更新性				3.5				0.30	-	-	3.5		
3.1 空間のゆとり				3.4	0.30		-							
	1	階高のゆとり	階高4m以上確保	5.0	0.60									
	2	空間の形状・自由さ		1.0	0.40		-	-						
3.2	荷重のゆとり	3500N/㎡以上に対応			4.0	0.30		-						
3.3 設備の更新性				3.2	0.40		-	-						
	1	空調配管の更新性	構造部材を痛めることなく修繕、更新可能	3.0	0.20									
	2	給排水管の更新性		4.0	0.20									
	3	電気配線の更新性		3.0	0.10									
	4	通信配線の更新性		3.0	0.10									
	5	設備機器の更新性		3.0	0.20									
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20									
	Q3 室外環境(敷地内)				-				0.39	-	-	1.8		
1	生物環境の保全と創出				1.0	0.30	-	-	1.0					
2	まちなみ・景観への配慮				2.0	0.40	-	-	2.0					
3	地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-	-	2.5					
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上				3.0	0.50	-	-					
	3.2	敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50	-	-					
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.5						
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.7						
1	建物外皮の熱負荷抑制	Low-E複層ガラスと断熱パネルを採用			4.0	0.02	-	-	4.0					
2	自然エネルギー利用				3.0	0.12	-	-	3.0					
3	設備システムの高効率化	BEI 非住宅 0.73 住宅(専有部) -			4.0	0.61	-	-	4.0					
	集合住宅以外の評価(3a.3b)	高効率機器の採用			4.0	1.00	-	-						
	集合住宅の評価(3c)				-	-	-	-						
4	効率的運用				3.5	0.24	-	-	3.5					
	集合住宅以外の評価			3.5	1.00		-	-						
	4.1	モニタリング	主要用途別エネルギー消費の内訳を把握できるモニタリング用機器を設置	4.0	0.50									
	4.2	運用管理体制		3.0	0.50									
	集合住宅の評価			-	-					-	-			
	4.1	モニタリング		3.0	-					-	-			
	4.2	運用管理体制		3.0	-					-	-			
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.4						
1	水資源保護				3.4	0.20	-	-	3.4					
	1.1	節水	自動水栓および節水型衛生器具を採用			4.0	0.40	-	-					
	1.2	雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-						
					3.0	0.70	-	-						
					3.0	0.30	-	-						
2	雑排水等利用システム導入の有無													
2	非再生性資源の使用量削減				3.5	0.60	-	-	3.5					
	2.1	材料使用量の削減	ビニル系床材、吸音材料・防音防振マット、フリーアクセスフロア	3.0	0.10		-	-						
	2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20									
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20									
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		4.0	0.20									
	2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10									
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		5.0	0.20									
3	汚染物質含有材料の使用回避				3.3	0.20	-	-	3.3					
	3.1	有害物質を含まない材料の使用	有機物を含まない材料を選択			4.0	0.30		-	-				
	3.2	フロン・ハロンの回避			3.0	0.70								
					1	消火剤	-					-	-	-
					2	発泡剤(断熱材等)	3.0					0.50	-	-
					3	冷媒	3.0					0.50	-	-
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.4						
1	地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO2排出量に配慮			3.6	0.33	-	-	3.6					
2	地域環境への配慮				3.6	0.33	-	-	3.6					
	2.1	大気汚染防止	燃焼器具を不使用			5.0	0.25		-	-				
	2.2	温熱環境悪化の改善			3.0	0.50								
	2.3	地域インフラへの負荷抑制					3.6					0.25		
			1	雨水排水負荷低減			-					-	-	-
			2	汚水処理負荷抑制			3.0					0.33	-	-
			3	交通負荷抑制			4.0					0.33	-	-
	4	廃棄物処理負荷抑制	4.0	0.33	-	-								
3	周辺環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0					
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40		-	-						
	1	騒音		3.0	0.50									
	2	振動		3.0	0.50									
	3	悪臭		-	-					-	-			
	3.2	風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40					-	-			
	1	風害の抑制		3.0	0.70					-	-			
	2	砂塵の抑制		-	-					-	-			
	3	日照阻害の抑制		3.0	0.30					-	-			
	3.3	光害の抑制		3.0	0.20					-	-			
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70					-	-			
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-									